

農学生命科学研究科全体の取組について

中西 友子

東京大学大学院農学生命科学研究科 放射性同位元素施設・教授

東京大学農学生命科学研究科では、福島第一原発事故直後から、各専攻や附属施設が参加して、農業現場における放射能汚染についての調査研究を進めてきました。その分野は、作物、土壌、畜産、水産、など多岐に渡りますが、得られた成果を定期的に報告会で発表してきました。その報告会も今回で6回目を迎えることとなりました。これらの報告会は全てホームページから資料と共に動画としてご覧いただけます。事故後最初の年は放射性物質の予想していなかった動きに戸惑ったこともありましたが、調査研究が進むにつれて次第に動きについても予測できる部分が出て参りました。

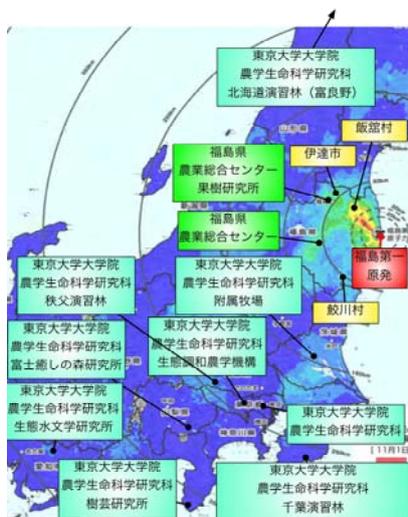
得られた調査結果ですが、今までは、主に日本語の総説や論文として発表してきましたが、今月、初めて英語の本として Springer 社から出版することができました。どうぞ以下のサイトをご覧ください。

<http://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54328-2/page/1>

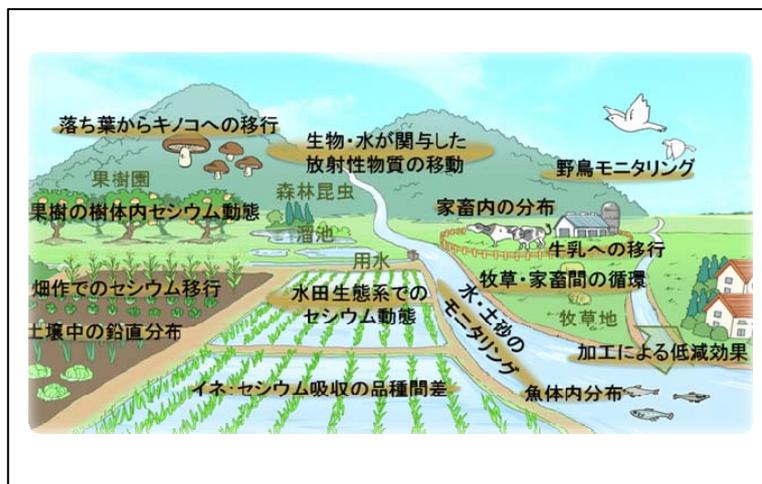
だれでもこのサイトから無料でどのページの内容でもダウンロードできます。

また、今後、私たちは今までの取り組みを放射線の教育面にも生かしていこうと考えています。資料や教材などの作成だけでなく、学部学生や大学院学生を対象とした講義や現場での実習などについても各種企画をしているところです。

ご存知のように放射性セシウムの半減期は30年であり、当然ながら私達の調査研究には長期的な取組みが不可欠です。そこで私たちは今後も地道にかつ継続的に放射能汚染についての研究を続けていきたいと考えております。



主な調査研究場所



主な調査研究分野